

はじめに

今年の課題曲は全体的に音域が高めです。特にファゴットの高音域は息の支えがないとアンブシュアが硬くなり唇で噛んで演奏しがちなのでしっかり息を入れましょう。一つ高音域のトレーニングをご紹介します。チューナーを付けて3オクターブ目のC音をタンギングしないで息のみで4拍ゆっくりとロングトーンをします。その際、チューナーが0より高ければ息の圧がかかり過ぎ、低ければ圧が足りないと見て丁度0の地点になる息圧を探しましょう。そうするとC音に必要な息圧がわかり支えが出来ます。同様にC-D-E-Fとこの4音で必要な息圧をチェックしながらロングトーンをすると高音域の支えが出来てきて楽に演奏できるようになりますので試してみてください。もう一つ基礎的な事でとても大切なテクニックのフリックというのがあります。左手親指で中音Aはhigh A key、B \flat -H-Cはhigh C keyをタンギングする際にちゃんと押して発音をクリアーにします。フリックをしないとオクターブ下の音が混ざって音が濁ってしまうので必ず行いましょう。

I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

この曲では、八分音符を短く切る場面が多いので、反応が良いリードを選択すると良いと思います。スタッカートは跳ねるのではなく、次の音と繋がらないように「音を分ける」と思って演奏しましょう。

・練習記号【B】の対旋律の演奏時に付点音符が遅れないように、指でリズムを取るようにハッキリ動かしましょう。その先の4小節目からの音型は、聴く人にもリズムが分かるようにスタッカートやシンコペーションの吹き分けを丁寧に練習しましょう。

・練習記号【D】から高音の対旋律を吹き始める際は、直前ffからアンブシュア、息が硬くならないようにリセットして柔らかい音色になるように心掛けましょう。

・練習記号【J】アウフタクトのE \flat は、通常の運指の左手小指上(Low E \flat key)の代わりに左手小指下(Low Cis key)を押さえると、響きが暗めになって他の楽器と馴染みやすい音色になるので試してみてください。あと高音のE \flat は息が細くなって音程が下がらないように気を付けましょう。

・練習記号【L】からは全ての音の発音をはっきりするように心掛けましょう。その際、上記で説明しているフリックを必ず使用してノイズが入らないように練習しましょう。

II ポロネーズとアリア ~吹奏楽のために~

作曲：宮下 秀樹

この曲は、ミディアムテンポの中での音の長さの扱いが重要になってきます。特にポロネーズという舞曲の中で四分音符、二分音符といった長めの音符を演奏する際に、べたっと演奏すると流れが重くなってしまいますので必ず音の終わりが音楽に合った音の処理を心掛けましょう。スラーの始まりが中音のAで始まることが多いので、左手親指のA keyのフリック(上記参照)を忘れずに行いましょう。旋律を演奏する際は横の流れを感じて演奏しましょう。その際、フレーズの頂点(例えば練習記号【A】の4小節目、6小節目のそれぞれの1拍目)に向かって息を増やし、頂点を境にフレーズの終わりにかけてエネルギーを徐々に減らして行くと自然に歌うことができます。

・練習記号【B】から練習記号【C】に入る際、音が1オクターブ以上下がります。E \flat が上ずらないようにアンブシュアと息のスピードを緩めて演奏しましょう。

・練習記号【D】の2小節前は、大切な音型なのでしっかり息を入れて埋もれないように演奏しましょう。

・練習記号【F】を演奏する際、低音でフォルテを出すためにアンブシュア(くわえる位置)を通常より浅めにしてみると、音量が出し易くなります。

Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

メトロノームを使って、遅いテンポから練習して行きましょう。その際、スラーの掛かっている位置やスラーの無い音の区別をきちんと付けて、聴いている人が聴き分けられる様にアーティキレーションをしっかりと練習しましょう。練習時のコツは冒頭から【C】の終わりまでは1拍目と3拍目、【G】から曲の終わりまでは1拍目(いわゆるダウンビート)をしっかりと捕まえましょう。逆にアップビートは流れを感じて重くならないように注意しましょう。ダウンビートの時に休符がある場合も、しっかりと休符を感じると安定した「ノリ」が出て来ます。

- ・20小節目は3拍目に音があるつもりで最後までしっかりとクレッシェンドしましょう。
- ・練習記号【F】の三連符と付点八分音符+十六分音符が同じリズムにならないように吹き分けましょう。
- ・練習記号【G】以降とても速いテンポになります。その際、中音のE \flat を通常の運指で演奏すると間に合わないのので、通常の運指から右手を全て取り除いて左手だけでE \flat を取ると指が速くまわりやすくなります。
- ・練習記号【O】のB \flat -G \flat -B \flat は右手親指が間に合わない人はG \flat を通常の運指から右手親指を離して、代わりに小指の奥にあるFis keyを押さえると素早くなるので試してみてください。
- ・130小節目からあるとても難しいパッセージですが、3音で繋がっているスラーを全部1つのスラー、もしくは4音でスラーを付けて練習すると効果的です。

Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口透

この曲は、3・4拍目のタイ後の八分音符が転びやすくなっているので、タイを外してメトロノームでしっかりとリズム練習を行いましょう。高音域のフレーズ後に出てくる低音は、口がバテている状態でそのままのアンブシュアで吹くと音程が上ずってしまうので気を付けましょう。特にB \flat はしっかりアンブシュアを柔らかくして演奏しないと、詰まった音色になるので要注意です。

- ・【A】は高音Cからスタートしますが、アンブシュアが硬く息が細くなりやすいです。補助として通常の運指にLow Cis keyを付け足すと、音が太くなり支えを作りやすくなるので試してみてください。61小節目からも同様です。
- ・【C】と【D】の前の二連符の音価は短めではありますが、跳ねないで発音をはっきりする事を意識しましょう。
- ・トリオの対旋律は和声に沿って音程・音色のコントロールするのが少し難しいです。音色が明るくなり過ぎないように、やや暗めの音色を意識して周りと同様に練習しましょう。
- ・【G】からスラーの最後に出てくる四分音符が短くならないように、音価分の長さを維持しましょう。
- ・最後のB \flat のppはアンブシュアを柔らかくして、音が潰れないように豊かな響きで演奏しましょう。